

尾ノ上の風

第15号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

真剣な態度で！！地震・火災避難訓練を実施

12月5日（木）に地震・火災避難訓練を熊本市東消防署の協力を得て実施しました。

今回は地震後に給食室から出火した想定で行いました。11月の不審者避難訓練の際は、避難する時に私語が多かったという反省点が残りましたが、今回は私語をする子どももなく、真剣に取り組んでおりました。

運動場に避難した後は、消防署の方から火事の際の行動について話を聞き、水消火器を使って火を消す訓練をしていただきました。真剣に訓練することで、緊迫した状況でどのように行動すればよいかを知り、自分の命や安全を守る判断と行動ができるようになってほしいと思います。



消火器をもって消す訓練（上）
と消防署員にお礼をいう6年生

欠席・遅刻連絡は 安全メールをご利用ください。

欠席・遅刻のご連絡は安心メールをご利用ください。スマホをお持ちの方は、下のQRコードが便利です。メールだと時間に関係なく送信することができますが、欠席・遅刻当日の朝8時ごろまでには送信されてください。

担任や学校に直接連絡したい方の電話連絡がなくなりやすくなります。ご協力をお願い致します。



こんにちは！お仕事&授業拝見24 4年4組国語 中島先生編

中島先生の授業を拝見して

①積み上げを大切に国語学習であること。②子どもに個別支援をしつつ学級全体の学習雰囲気上げること（とても発表したがる集団に育っている）③子どもが発表するときの受け止め方などに中島先生らしい学級づくりを感じました。

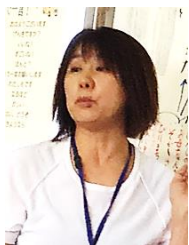
この日の国語のめあては「主人公の気持ちが変わったところを考えながら読もう」でした。「この主人公は最終的にハートの色は何色に変わるの」と尋ね、そこに至るまでの変化を発表させて黒板に書きながら全員で確認。最終場面の色を先に確認して、そこに至るまでの変化を追っていこうとわかりやすいめあての示し方でした。私が授業を拝見して感心したのは、答えの根拠を子どもたちが教科書の本文の中に見つけて発言していたことです。子どもたちは何ページの文章のどこに書いてあるか、発言の中にもきちんと入り、言い忘れると周りの子が何ページのどこなのかと聞いていました。

この後、中島先生が尋ねたことについてグループで自由に話し合う場面がありましたが、この後全体で発表したがる子どもたちがすごく多いのに驚きました。これだけの子をできるだけ発表させようと起立させて一人一人に発表させる時間をかなりとっておられるからだと思います。

先生は発表させるだけでなく、一人一人が言おうとすることを教科書や挿絵で学級全体に確認しておられました。何より先生自身の子どもの発言の受け止め方がいいなと思いました。先生も子どもたちに聞くことに重点を置いておられるなと感じました。この後、主人公にメッセージをノートに書かせる時に、「〇〇さんよかったですね～」という書き出しを書いて、続きを書くようにさせられました。このやり方でこの学習は進んできているようで、子どもたちはスムーズに活動に入っており、書かせ方も工夫次第だなと思いました。根拠は教材文を見つけることを大切にしておられましたが、心情の変化と挿絵もたくさん確認されていたのが印象的でした。子どもたちの成長が楽しみだなと思えた1時間でした。



学習の振り返りを使って、全員で確認する中島先生



中島 裕子（なかしま ゆうこ）先生 尾ノ上小6年目

【中島先生にインタビュー】どうして先生になろうと思ったのですか。

父やおばが小学校、中学校の教師をしているなど親戚に教育関係が多い環境に囲まれて育ったのが影響したと思います。教え子が家によく来ていて、人のつながりがよいのを見て育ちました。だから、自然と教師になりたいと思いました。

こんにちは！お仕事&授業拝見25 1年4組国語 田中先生編

田中先生の授業を参観して

①支援を必要とする1年生という学年で、個別指導と全体指導を併行して進める指導の確かさ、②子どもたちの集中力を引き戻す、持続させる教育技術のすばらしさ、③安心感のある表情と雰囲気子どもたちを受け止めているといった点が特に印象に残りました。

授業が始まると先生と子どもたちで国語の教材文を交互にテンポよく読む活動からいきなり入れ、引き続き音読をがんばっていくとさらに上手になるよと意欲づけをされました。次に、口の体操を先生と子どもたちと一緒にやり、5分の導入で国語の学習にスムーズに導いていかれました。授業のはじまりがルーティーン化されていて、子どもたちが自然と国語モードに入ることができるようになっていました。

メインの課題に入ると、小さい「や、ゆ、よ」を拍手でさせながら、テンポよく子どもたちに言わせて、iPadで撮影したクイズ問題を電子黒板に写していきました。シンプルで、一番後ろの子どもでも見えやすく視覚的な支援として分かりやすいと感じました。この時、小さい「や、ゆ、よ」文字が書かれた紙をペアに配られ、先生が出した問題の口に合う言葉を早押しで指差しをさせました。ゲーム化することによって低学年の子どもたちを集中させるという手立てがさすがでした。田中先生の授業には、子どもたちに具体的な活動をさせることが多く、口で言いながら動作も同時にして集中させることがたくさん見られました。その指導をしながら、子どもたちの発音があやしいと必ず言いなおしをさせられていました。発音と口形をととても大事にされておられ、初等教育の基礎基本を大事にした授業でした。



早押しのゲーム的な活動に楽しく集中する子どもたち



田中 純子 (たなか じゅんこ)先生 尾ノ上小6年目

【田中先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

資格を取りたいなと思って、教育学部に進み教員の免許を取りました。

先生という仕事の面白さを実感したのは、教師になってからです。小学校5年生を担当して学校の先生の仕事の面白さを味わうようになりました。

こんにちは！お仕事&授業拝見26 ひまわり学級 井上貴弘先生編

井上先生の授業を拝見して

①表情は笑顔が基本で非常に柔らかい雰囲気を出している。

②子ども個人との関わりをしっかりとつ。

③手作りのワークシートで具体的な活動を準備する

といったよさを感じました。

2年生と4年生を同時に指導する複式指導です。両方の学年を行きつ戻りつする「渡り」と呼ばれる授業は、私も経験がありますが、難しい指導だと思いました。

2年生の国語の学習では、ワークシートを準備して、めあてをきちんと視写させたり、先生が読み上げた特徴を聞いて絵の中から選んだり、注意しながら聞くという国語の学習が具体的でよかったと思います。

特に、子どもが絵の中から選んだものが特徴と一致しているかを確認するために、先生が「耳が立っていますか。首輪がついていますか」などと読み上げていかれると、子どもは自分の選んだ犬がそれに合っているか確かめていたところ。この活動は有効であると感じました。2年生が作業に入ると、すぐに4年生の方に体を向けて学習を進められました。

学習はローマ字の学習シートに取り組んでいましたが、先生が来られると自分があまり自信のなかったところに取り組んだり、質問しながら書き込んだりと集中力がアップしました。隣で友達の話声が聞こえても、自分のすることに集中していて成長を感じました。



子どもの目を見ながら、理解を確かめる井上先生



井上 貴弘 (いのうえ たかひろ)先生 尾ノ上小1年目

【井上先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

祖母が教師をしていたのですが、熊大に行きたくて教育学部に進みました。教育実習では、子どもとふれあうのがとにかく楽しかったですね。そのような体験があり、教師になりたいと思いました。